

沖縄市の歴史

History of Okinawa City

越來、美里、古謝、コザ、
まちの名前の変遷に歴史が刻まれています。

琉球王国の時代に、越來間切から美里間切が分離され、1908年(明治41年)の沖縄県及び島嶼村制の施行で越來村、美里村となりました。

壮絶な地上戦で多くの犠牲者を出した沖縄戦終結後、難民収容所を中心に急激に人口が増えた地域に市制が敷かれ、越來村が古謝市、美里・具志川一帯が前原市となりますが、米軍より移動が許されると人口は減少し、翌年には市制を解かれ、越來村、美里村に戻ります。

嘉手納基地の門前町として発展した越來村は、1956年(昭和31年)6月に名称をコザ村に変更し、7月には市に昇格して

コザ市となります。

そして、本土復帰から2年後の1974年(昭和49年)、歴史的、地理的、社会的にも緊密な関係にあったコザ市と美里村の対等合併により「沖縄市」が誕生。琉球王国時代の1666年に分離されてから308年ぶりに再び一つの市になりました。

沖縄市では、「国際文化観光都市」を宣言し、先人から受け継がれてきた文化を大切に守りながら、力強さと魅力にあふれる市民の力を結集し、未来へと進化するまちづくりを進めています。

1955年頃のBC通り



The history engraved in the changing of the names of Goeku, Misato, Koja and Koza

In the age of the Ryukyu kingdom, Goeku magiri and Misato magiri were cut off from Okinawa prefecture in 1908 and changed to Misato village with the implementation of the island village system.

After the end of the Battle of Okinawa and its fierce ground battle that caused many casualties, a municipal system was set up in the areas where population increased rapidly, mainly in refugee camps. Goeku village became Koja city while Misato and Gushikawa became Maehara. However, when the U.S. military took rule at the end of the war and changes were once again made, the population decreased and cities were broken down and returned to Goeku and Misato villages once again.

Goeku village, which was developed as the base town in front of Kadena Air Base, changed its name to Koza village in June of 1956, and later promoted to Koza city.

Two years after the reversion to mainland Japan, in 1974, Okinawa City was born through the equal merger of Koza city and Misato village, which had close historical, geographical and social relationships. It became a city again for the first time in 308 years after being separated in 1666 during the Ryukyu kingdom era.

Okinawa City declares itself as an "international cultural tourism city" and while preserving the culture inherited from its predecessors, it has always prospered by gathering the power of its citizens and promoting urban development that leads the future.



1974年
沖縄全島エイサーコンクール

主なできごと

- 1974 ●コザ市・美里村合併で沖縄市誕生(4/1)
- 市民憲章、国際文化観光都市宣言、市民の花、市民の木制定(10/26)
- 沖縄市・豊中市兄弟都市宣言(11/3)
- 1976 ●室川小学校開校(4/13)
- 1981 ●沖縄市民会館落成(1/10)
- 安慶田中学校開校(4/7)
- 1982 ●広島東洋カープ沖縄市で初チャンピオン(2/4)
- 沖縄市民10万人突破(10/19)
- 1984 ●沖縄市文化センターオープン(4/21)
- 沖縄市シルバー人材センター設立(5/16)
- 1985 ●第1回沖縄市福祉まつり開催(1/26)
- 宮里中学校開校(4/6)
- 核兵器廃絶平和都市宣言(6/20)
- 1990 ●美原小学校開校(4/5)
- 沖縄市国際交流協会結成(7/29)
- 1993 ●第1回おきなわマラソン開催(3/7)
- 市役所新庁舎落成式典(4/8)
- 1994 ●沖縄市・米沢市姉妹都市提携(4/1)
- 1998 ●沖縄市産業交流センター完成(4/3)
- 沖縄市民小劇場あしびなーオープン(5/17)
- 2000 ●沖縄市福祉文化プラザオープン(8/1)
- 2002 ●沖縄市・レイクウッド市姉妹都市提携(1/16)
- 第1回沖縄市工芸フェア開催(11/22)
- 2003 ●沖縄市ITワークプラザ開所(4/11)
- 2004 ●沖縄子ども未来ゾーンオープン(4/15)
- 2005 ●沖縄市モバイルワークプラザ開所(2/26)
- 沖縄市戦後文化資料展示室「ヒストリート」オープン(9/7)
- 沖縄市武道館・弓道場落成(11/12)
- 2007 ●エイサーのまち宣言(6/13)
- 胡屋十字路がスクランブル交差点に切り替え(6/30)
- コザミュージックタウンオープン(7/27)
- 2008 ●比屋根小学校、幼稚園開校(4/3)
- こどものまち宣言(4/30)
- 2009 ●沖縄市・東海市姉妹都市提携(11/20)
- 2010 ●沖縄市体育館落成(5/15)
- 2011 ●沖縄市社会福祉センター・沖縄市男女共同参画センター完成(1/13)
- 2012 ●知花花織が国の伝統的工芸品に指定(7/25)
- 2013 ●中心市街地循環バス本格運行(4/1)
- 2014 ●沖縄市野球場「コザしんきんスタジアム」落成(2/11)
- 沖縄市制施行40周年記念式典(11/9)
- 2015 ●沖縄市民14万人突破(7/27)
- 2017 ●広島東洋カープ セリーグ25年ぶり優勝パレード IN 沖縄市(2/25)
- 沖縄子どもの国に九州初のホワイトライオン来園(3/26)
- 2017沖縄市民平和の日記念行事「折り鶴プロジェクト」で、9.7kmの「最も長い折り鶴レイ」がギネス世界記録に認定(9/7)
- 2018 ●エイサー会館オープン(3/25)
- 沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート移転オープン(8/8)
- 2019 ●沖縄子どもの国に希少種のジャガー来園(4/17)
- 沖縄子どもの国に新ライオン舎完成(4/23)



1982年
広島東洋カープ初チャンピオン



1993年
第1回おきなわマラソン



1998年 沖縄市民小劇場
あしびなーオープン



2004年 沖縄子ども未来ゾーン
オープン



2007年 コザ・ミュージックタウンオープン



2014年 コザしんきん
スタジアム落成



2015年 人口14万人突破



2017年 折り鶴プロジェクトで
ギネス記録認定



2018年
エイサー会館オープン



2019年 沖縄子どもの国
新ライオン舎完成

史跡と文化財

Historic sites and cultural assets

沖縄市には太古の人々の暮らしを偲ばせる貝塚から、琉球王国時代、近代の史跡・遺跡、芸能、工芸などが数多く残っています。このうち、市・県・国の指定・登録文化財は38件。沖縄市では市内にある文化財を歴史・文化遺産として大切に守り、その価値を後世に伝えていきます。

In Okinawa City, there are many historical and archeological sites, from shell mounds to folk art and crafts reminiscent of life of ancient people during the Ryukyu kingdom era. Of these, 38 are designated registered cultural properties by the city, prefecture or country. In Okinawa City, we protect cultural assets in the city as proud history and cultural heritage, and pass their value on to future generations.



② 美里村屋(国登録有形文化財)

美里地区の公民館として1954年に建設されました。入母屋式の木造平屋は、沖縄伝統の建築技術と日本本土から伝えられた建築技術が融合した県内でも珍しい建造物です。現在も空手教室や子ども会、青年会などの地域活動に利用されています。

① 沖縄こどもの国・ふるさと園(国登録有形文化財)

沖縄こどもの国の中にある「ふるさと園」は、沖縄の気候風土に適するように造られた明治末期から大正にかけての農家のたたずまいを復元したもので、主屋、アシャギ、畜舎、豚舎、高倉、井戸などからなります。このうち旧久場家住宅の主屋、ヒンプン、旧平田家住宅のマチフルは、国の有形文化財に登録されています。

③ 越来グスク(アマミクヌムイ)(国指定文化財)

現在の石炭岩丘陵上に立地していた越来グスク。発掘調査により、14～15世紀後半を中心とする多量の貿易陶磁器や鉄釘などの金属製品が出土。しかし、グスク全体を知る手がかりとなる外壁は、未だ発見されていません。のちに琉球国王となる尚泰久や尚宣威が、王子時代に居城していたとされるグスクの跡地。神アマミクが創ったとされることから、国指定名勝「アマミクヌムイ」に追加指定されました。





4 登川の石碑 (市指定文化財)

1739年、登川部落は池原から分離、独立し現在地へ移転しました。石碑は、その記念に建てられたもので、この事業にかかわった人々の屋号と名前が記されています。首里王府は当時、山林資源の保護育成のため、県下の全域で100カ所余りの村を移動させたことを今に伝える貴重な文化財です。



5 室川貝塚(市指定文化財)

1974年に沖縄市庁舎の背後の斜面から発見されました。室川下層式土器など貴重な出土品があります。周辺は歴史公園として整備され、室川貝塚は市の指定文化財となっています。



6 奉安殿(市指定文化財)

美さと児童園の一角にある奉安殿は、かつて天皇・皇后の御真影(写真)を保管し奉る建物で、火事や水害などの緊急の場合に職員は命がけで御真影を守ることが義務とされていました。戦時中は、戦火から御真影を守るために命を失った校長先生もいたそうです。現在残っている奉安殿は、県内では3か所です。



7 内喜納の登窯

壺屋焼の流れを汲む陶工・鳥袋によって築かれた登窯。大正末期に築かれ昭和の初期に閉鎖されました。窯跡は原形に近い状態をとどめています。壺屋焼の流れを汲む窯は、戦争などでほとんど失われ、現存しているのは県内でもわずかです。古い窯の風致や構造を知る上で貴重な財産となっています。



9 白樺

尚泰久王が越来王子時代に世利休との間に子どもができた記念として、みかんと白樺の木が植えられたと伝わっています。先の沖縄戦でみかんの木は焼失しましたが、白樺は幹に艦砲射撃を受けたにもかかわらず、根が残り再生しました。その後、白樺も平成9年2月に枯れてしまいましたが、その木の2代目が屋敷地内と隣のターチューガーに植えられています。



8 泡瀬ビジュル(市指定文化財)

「ビジュル」とは、沖縄では信仰の対象とされる霊石のことで、多くは人形をした自然石です。泡瀬ビジュルは地域の人々の心の拠り所であり、子安(子育て、子授け)、無病息災、航海・交通の安全などに顕著なご利益があるといわれています。特に子宝の神として有名で、毎年多くの方が子宝祈願、安産祈願に訪れています。



10 カフンジャー橋 (市指定文化財)

西洋から中国を経てきた石造技術を生かして1912年前後に建造されたアーチ型工法の橋。沖縄の歴史書「球陽」に、カフンジャーは昔から大雨の時には水流が激しく、交通の難所であったことが記録されており、先人の治水への苦心や橋の歴史を知る上で貴重な石造物です。



11 鬼大城の墓(市指定文化財)

1458年、首里王府の総大将として勝連城主の阿麻利(あまわり)を破った鬼大城が、第一尚氏の滅亡後、第二尚氏に追われ自害した場所だといわれています。知花グスク南側の崖中腹にあり、そばには鬼大城の子孫が建てた石碑が残っています。



12 尚宣威王の墓

尚宣威王は、第二尚氏王統の始祖である尚円王の弟で、尚円王が即位すると越来間切の総地頭に任ぜられ、越来王子と称されました。1476年に尚円王が亡くなり、尚宣威は1477年に王位を継ぎましたが、在位6か月で王位を尚真にゆづりました。その後、越来間切へ隠遁し、同年8月に没したとされています。



伝統芸能

Traditional culture

沖縄の芸能は、琉球王朝に始まる宮廷芸能と庶民の間で演じられた民俗芸能の二つに大きく分けられます。

宮廷芸能は、琉球王国時代に中国からの使者を歓待するために演じられたもので、一般に琉球舞踊、琉球古典音楽と呼ばれています。琉球舞踊と古典音楽とせりふを組み合わせた歌劇「組踊(くみおどり)」は沖縄独自のものです。2010年11月にユネスコ無形文化財(世界遺産)に指定されました。沖縄市においても旧越來村の大工廻村の豊年祝いの演目の一つとして伝えられてきました。沖縄戦などで一時途絶えていましたが、1983年(昭和58年)に復活を遂げています。

民俗芸能は、古くから地域に伝わる歌や踊りで土着性の強い芸能です。沖縄市に伝わる盆行事の「エイサー」は全国的にも有名で、沖縄市の代名詞にもなっています。豊年祈願のあとに女性だけで演じられる「ウスデーク」や「獅子舞」、京都から伝わったといわれる祝儀芸の「京太郎(チョンダラー)」なども地域の祭りの中にしっかりと根付いています。

また、沖縄市は、沖縄民謡の優れた唄い手や作曲者を数多く輩出しており、唄・三線のまちとしても広く知られています。



Traditional culture

Okinawa's performing arts can be broadly divided into court performing arts, which began in the Ryukyu dynasty and folk performing arts performed by the common people.

Court performing arts was first performed to welcome messengers from China during the Ryukyu Kingdom era, and is generally called Ryukyu dance or Ryukyu classical music. The opera "Kumiodori", a combination of Ryukyu dance, classical music and dialogue, is unique to Okinawa and was designated as a UNESCO Intangible Cultural Property (World Heritage) in November 2010. In Okinawa City, it has been handed down as one of the events to celebrate the harvest of Dakujaku village, the former Goeku district. It was temporarily interrupted by the Battle of Okinawa, but was brought back in 1983.

Folk performing arts are traditional indigenous songs and dances that have been handed down to the local communities since ancient times. "Eisa dancing", a Obon festival ceremony that has been passed down to Okinawa City, is famous all over the country now and has become synonymous of Okinawa City. "Usude-ku" and "shishimai", performed only by women after the prayer for a year of good harvest, and "Chondaraa", a celebratory dance that is said to have come from Kyoto, are firmly rooted in local festivals.

In addition, Okinawa City produces many excellent singers and composers of Okinawan folk songs, and is widely known as the city of music and sanshin.

沖縄市の偉人

沖縄の歴史に確かな足跡を残した、郷土の偉人たち。
その功績は今も語り継がれています。

Great locals who left a solid footprint in the history of Okinawa.
Their achievements are still handed down today.



大城 賢雄 (鬼大城)
UFUGUSUKU Kenyu (Uni-Ufugusiku)
(不明) ~ 1469年頃

尚泰久王に仕えた武將
Warlord who served Shō Taikyū

童名は松金。父は伝承によれば具志川間切喜屋武城の喜屋武按司、栄野比大屋子といわれています。幼くして父を亡くし、母の実家、美里間切知花村大城(沖縄市知花地区)で育ちました。

琉球王府の正史「球陽」によれば、人並みはずれた体格で武勇に優れ、狼虎の如しと例えられ、周囲の人は鬼大城と渾名しました。一帯を治めた越來王子尚泰久に仕え、王の即位後は、女王百度踏場が阿麻和利に嫁ぐに当ってその従者として仕えていたが、阿麻和利の叛意を知り、百度踏場を背負って城から脱出。王城にたどり着いてから、追っ手の軍勢を追い返しました。1458年、国王から討伐軍の指揮を任せられ勝連城を包囲しますが、城は堅固で攻めあぐねていたところ、一計を案じて、自ら女装して城に忍び込み、油断した阿麻和利を討ち取りました。

この功績で越來間切(沖縄市越來地区)総地頭職を授けられ、越來親方賢雄と名乗り、百度踏場を妻に迎えています。後に金丸(尚円王)擁立のクーデターで、第一尚氏と共に攻め滅ぼされたと伝えられています。

As a child his name was Matsugani. According to tradition, his father is said to be Gushikawa Makiri Kyan Castle's ruler, Enobi Ufuyaku. According to the Ryukyu kingdom's official history, "Kyuyo", Ogusuku Kenyu's physique was extraordinarily and extremely strong. He served prince Shō Taikyū who ruled the area and after the throne of the king, served as princess Momotoagari's attendant when she was marrying Amawari, but once he found out about his planned rebellion, he fled the castle carrying Momotoagari on his back. After arriving at the royal castle, he purged the enemies. In 1458, the king took over the command of the subjugation army and besieged Katsuren castle, but the castle was firm and aggressive and could not be taken down. It is said that Ogusuku then disguised as a woman to sneak into the castle, and later successfully assassinated Amawari.



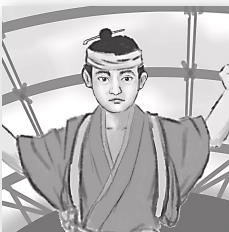
島 マス
SHIMA Masu
1900年(明治33年) ~
1988年(昭和63年)
沖縄社会福祉の母
Mother of Okinawan
social welfare

沖縄の社会福祉に大きな足跡を残した島マスは、1900年(明治33年)に美里間切伊波村(現うるま市)で生まれました。沖縄県女子師範学校を卒業後、小学校の訓導(教師)となりましたが、1945年(昭和20年)の沖縄戦がマスの人生を一変させました。最愛の子供を戦争で亡くしたマスは、戦後、再び教鞭をとりました。49歳で教員生活に終止符を打ち、米民政府より越來村の厚生員に任命されたマスは、米兵相手の商売をする特殊婦人の問題や青少年の非行や犯罪へ対応しながら、「胡差児童保護所」や「コザ女子ホーム」を開設します。二つの施設は、後に琉球政府の管轄へと移管されますが、それは、児童福祉法などの制度がない時代に、マスの情熱と行動、そして彼女を信頼し支えた人々がなした福祉の姿でした。

その後、58歳の年に、中部地区社会福祉協議会の事務局長に就任し、組織をつくり、人を育て、精力的に福祉活動を展開しました。

マスは、88年の生涯を閉じるまで、ひたすら、「チムグリサン(心が痛む)」の心を信条とし、他人の苦悩や悲しみと寄り添い続けたのです。

Shima Masu was born in 1900 in Misato Magiri Iha village (currently Uruma city). After graduating from Okinawa Prefectural Women's Normal School, she became an elementary school teacher, but the battle of Okinawa in 1945 forever changed her life. Shima Masu, whose beloved child died in the war, returned to her job as a teacher after the war ended. Finishing her career as a teacher at the age of 49, Shima Masu was appointed by the U.S. occupation to become a welfare member of Goeku village. Her job was responding to the social problems of women doing special businesses with U.S. soldiers, as well as youth delinquency and crime. At the age of 58, she became secretary-general of the Chubu District Social Welfare Council, and continued to create an organization that nurtured people and engaged in social welfare activities.



安里 周祥 (飛び安里)
ASATO Shusho (Tobi Asato)
1768年 ~ (不明)

**自作の羽ばたき機で
空を飛んだ琉球の鳥人**
A Ryukyu birdman who flew the
sky with his self-made
flying machine

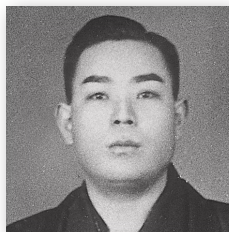
ライト兄弟よりも以前に空を飛んだといわれている飛び安里(安里周祥)は花火師として活躍、のちに越來村に居住したと伝えられています。

家は代々王府に仕える花火職人の家系で、曾祖・安里周当は貢船があると花火で冊封使を歓待したといえます。周祥もこれを会得し、1801年に識名園で冊封使をはじめ国王の面前で、仕掛け花火で「松竹梅」の字を描いて絶賛され、恩賞にあずかったといえます。

好奇心の強い周祥は飛び鳥を捕まえて来ては、生体や羽毛の重さを計ったり、どうして飛びかということなど研究し自ら飛行機を作りました。その羽ばたき機は弓の弾力性を利用して足で翼を上下させる仕組みで、竹、芭蕉布、鳥の羽などで作られていたといえます。

彼が飛んだ場所は泡瀬の断崖ともいわれています。越來には安里周祥が暮らしたと伝えられる屋敷跡があるほか、越來小学校には周祥のチャレンジ精神に学ぶと、校内に飛び安里像が建てられています。

Asato was active as a fireworks craftsman and lived in Goeku village. He is famous in Okinawa as the man who is said to have flew the sky well before the Wright Brothers. As a child, Shushou was always curious with flight and would catch birds to fly to weigh their feathers and study their mechanisms. Shushou's flying machine used the elasticity of the bow to raise and lower the wings with your feet, and is said to have been made of bamboo, basho cloth, bird feathers, among others. The place where he flew is said to be a cliff off of Awase. In Goeku, there is still a site dedicated to Shushou's former residence, and in Goeku elementary school there is a statue of Shushou reminding children the importance of taking on challenges.



普久原 朝喜
FUKUHARA Choki
1903年(明治36年) ~
1981年(昭和56年)
近代琉球民謡の祖
Founding father of modern
Ryukyu folk songs

普久原朝喜は1903年(明治36年)に越來村字照屋に生まれ、地元では、青年期から三線奏者として知られていました。1923年(大正12年)に21歳で大阪に出稼ぎに出て、紡績工場に勤めます。大正14年、ツバメ印レーベルから吹き込みの話があり「ハンタ原」と「宮古ンニー小」を初吹き込み。「ハンタ原」におけるカキパンチ(連弾奏法)は、それまでの三線にはなかった奏法で以後の沖縄民謡界に多大な影響を与えました。

1927年(昭和2年)大阪市でマルフレコードを創業。琉球民謡を中心にレコード制作や、新曲の作詞・作曲、レコードの販売も自ら手がけ、自転車の荷台に蓄音器を置いてレコードを聴かせながら行商したことから、関西の沖縄出身者たちから「チコンキープバル」と呼ばれました。

マルフレコードは、養子であり、後に「芭蕉布」などの作曲者として知られる普久原恒勇氏に引き継がれ、戦後は沖縄に拠点を移して存続しました。生誕90周年となった1993年(平成5年)には顕彰碑が、沖縄子どもの国の入口近くに建てられています。

Choki Fukuhara was born in Teruya district of Goeku village in 1903, and has been known locally as a sanshin player since his youth. In 1923, he moved to Osaka at the age of 21 and worked for a spinning mill factory. In 1923, he had a chance to cut a record with the Tsubame stamp label, recording the two songs "Hantabaru" and "Naakuninguwaa." Later Fukuhara founded Marufuku Records in Osaka in 1927 where he worked on record production, focusing on Ryukyu folk songs, writing and composing new songs, and selling records himself. He would sell records riding a bicycle with a phonograph placed on its bed. For this he was nicknamed "Chikonkee Fukubaru" from fellow Okinawans in Kansai. In 1993, to celebrate the 90th anniversary of his birth, a commemorative monument was built near the entrance to Okinawa Zoo & Museum.